

## 「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」

### 衛星放送事業者に市場の傾向に関するアンケートを実施 加入者、視聴率収入ともに2011年時点で伸び悩む 広告・事業収入には期待の見方

多チャンネル放送研究所(所長:林尚樹)は、このたび(社)衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しに関する調査を実施しました。その結果を発表します。

本調査は、『現状』、『1年後』、デジタル放送への完全移行が予定されている『2011年』という3つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを明らかにしようとしたものです。この結果、衛星放送事業者は、加入者数、視聴率収入については減少、または横ばいにとどまるなど厳しい状況になるものの、広告、事業収入については増加すると見ていることがわかりました。

多チャンネル放送研究所では、今後も本調査を定期的にも実施することで、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

#### ■調査結果の概要

##### 1. 自社チャンネルの加入者は当面、増加との見方

自社チャンネルでは、『現状』『1年後』『2011年時点』ともに「増加傾向」が最も多い。だが『2011年時点』では、「減少」が減るものの「横ばい」や「大幅減」が増え、やや厳しい見方になる。

##### 2. 多チャンネル放送全体の加入者は、将来的には「横ばい」

多チャンネル放送全体の加入者については、『現状』『1年後』ともに「増加傾向」が最も多いが、地デジ完了の『2011年時点』では「横ばい」と「増加」が拮抗し、マーケット全体が伸び悩むという見方をする事業者が多くなっていることがわかった。

##### 3. 自社の視聴料収入の展望には厳しい見方

視聴料も『現状』『1年後』『2011年時点』では、「増加傾向」「横ばい」が多い。ただし、『2011年時点』では、「大幅減」との回答も9.3%に達し、収入に関して総体的に楽観視されていないことがうかがわれる。

#### 4. 広告収入は当面横ばいの傾向だが、2011年時点では増加傾向

「横ばい」が『現状』(40.0%)と『1年後』(46.7%)では、最も回答を集め、「増加傾向」が次に続く。これが『2011年時点』になると逆に「増加傾向」が1位になる。

#### 5. その他事業収入も2011年には増加

自社チャンネルのその他事業収入においては、『現状』では「横ばい」(45.3%)「増加傾向」(26.7%)の順が多い。『1年後』でもこの順位は変わらないが、『2011年時点』では「増加傾向」が44.0%と「横ばい」の28.0%を追い抜く。

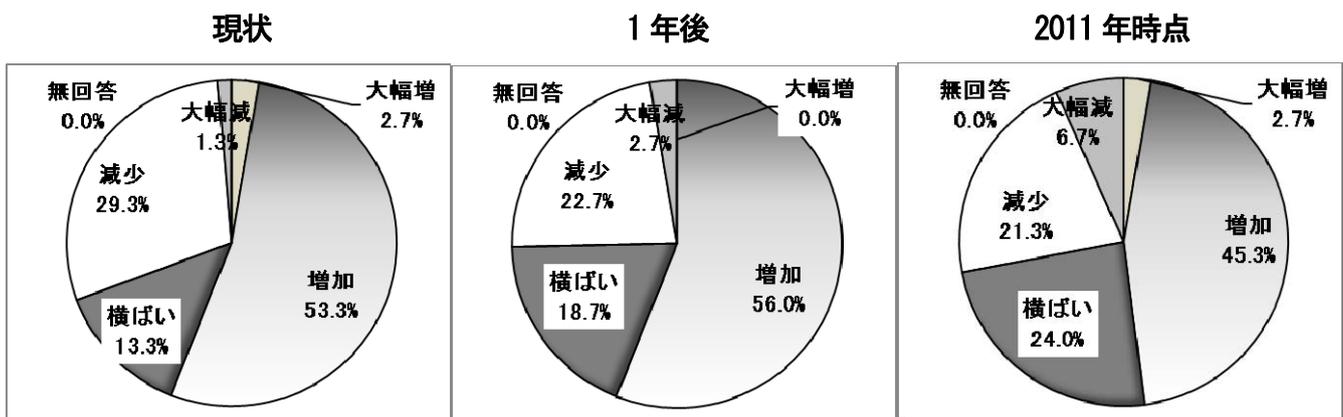
### ■調査の概要について

- 1.調査時期 2008年12月
- 2.調査対象 衛星放送協会正会員社のCS有料チャンネル(118チャンネル)
- 3.調査方法 郵送法
- 4.回収数 75チャンネル
- 5.回答回収率 63.6%

### ■調査結果詳細

#### 1. 自社チャンネルの加入者動向——自社チャンネルの加入者は当面、増加

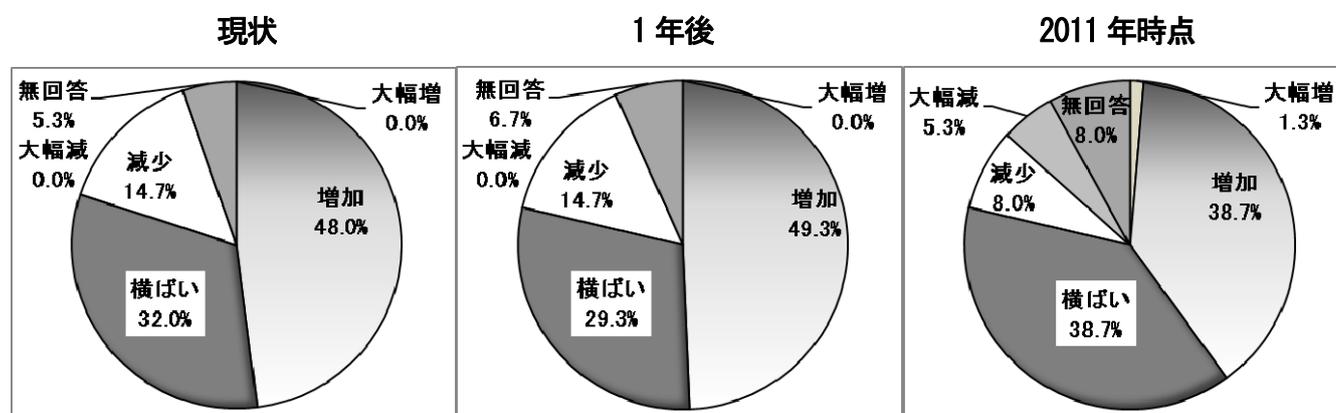
自社のチャンネルの加入者状況の動向について、『現状』で最も多いのが「増加傾向」(53.3%)、次が「減少傾向」(29.3%)、「横ばい」(13.3%)と続く。『1年後』でも「減少傾向」がやや減るが、基本的に同様の傾向がみられる。しかし、『2011年時点』では、「増加傾向」(45.3%)が減るとともに、「横ばい」(24.0%)や「減少傾向」(21.3%)が増えて、さらにこれに「大幅減」(6.7%)が続く結果となった。



#### 2. 多チャンネル放送全体の加入者動向——多チャンネル放送全体の加入者は、将来的には「横ばい」

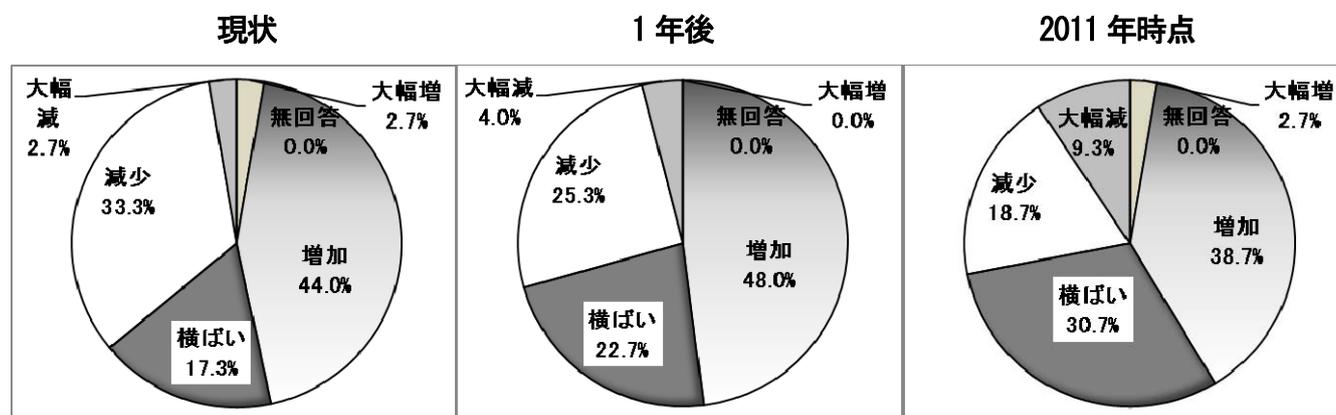
次に各チャンネルに対して多チャンネル放送全体の加入者動向について尋ねた。全体では、『現状』では「増加傾向」(48.0%)「横ばい」(32.0%)「減少傾向」(14.7%)の順番になった。また『1年後』でも

ほぼ同様な傾向がみられる。自社チャンネルの加入者動向では「増加傾向」の次が「減少傾向」であったのに比べると、多チャンネル放送市場全体では、やや楽観的な見方をしている。ところが、「2011年時」では「増加傾向」「横ばい」ともに38.7%で拮抗し、「大幅増」と「大幅減」も増え、厳しい見方になる。



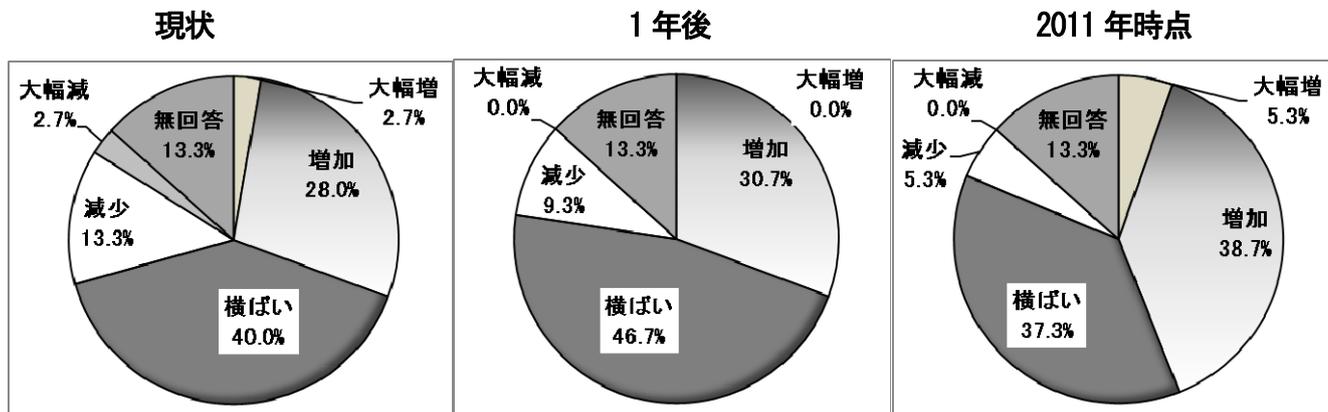
### 3. 自社の視聴料収入—自社の視聴料収入の展望には厳しい見方も

自社の視聴料収入について、「増加傾向」が『現状』(44.0%)、『1年後』(48.0%)、『2011年時点』(38.7%)で最も多い。次に「減少傾向」が『現状』(33.3%)と『1年後』(25.3%)ではこれに続く。『2011年時点』では、「減少傾向」が減り、「横ばい」(30.7%)が2位につけているが、「大幅減」が9.3%に増えるなど、収入に関しては、楽観視されていないことがうかがわれる。



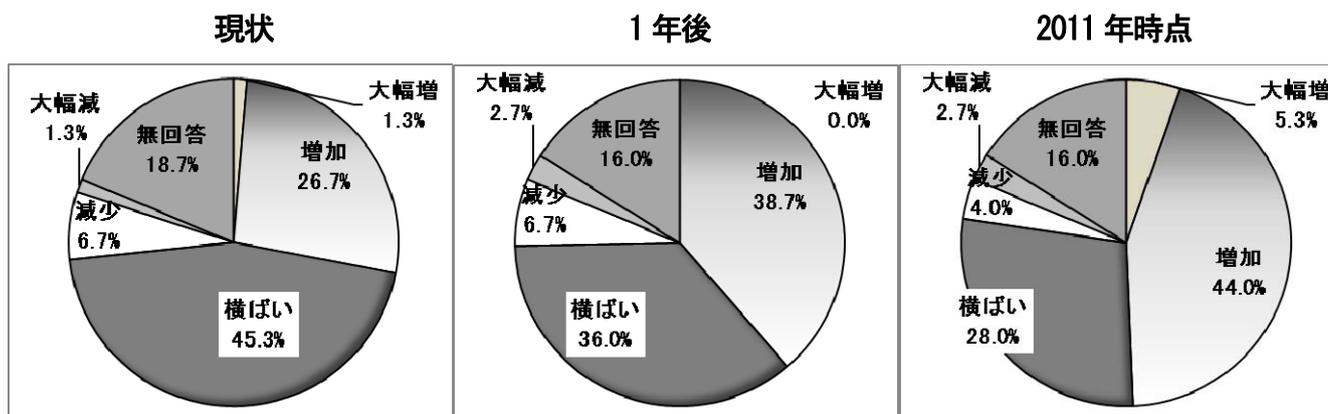
### 4. 広告収入—当面横ばいの傾向だが、2011年時点では増加傾向

広告収入について、「横ばい」が『現状』(40.0%)と『1年後』(46.7%)では、最も回答を集め、「増加傾向」が次に続く。これが『2011年時点』になると「横ばい」が少し下がって37.3%になり、逆に「増加傾向」が38.7%と1位になる。ただ、いずれの時点でも「無回答」が13%あるが、広告活動を全く実施していないチャンネルも多いことに留意されたい。



### 5. その他事業収入——2011年には増加

自社チャンネルのその他事業収入においては、『現状』で「横ばい」(45.3%)「増加傾向」(26.7%)の順で、『1年後』でもこの順位は変わらないが、『2011年時点』では「増加傾向」が44.0%と「横ばい」の28.0%を追い抜く。本項目でも「無回答」が多く注意が必要である。



以上